

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」実践例

学校名	白井市立大山口小学校
テーマ	「子供をネットトラブルから守るには」
実施形態	授業参観を併せて実施、グループ協議
日時 会場	令和6年1月26日（金） 14:40～15:50 体育館
参加者	地域住民 4名 保護者 8名 教職員 18名 学校評議員 2名 地区社会福祉協議会 2名 PTA 役員 6名 計 40名
広報	・保護者への案内（配付物） ・学校ホームページ
内容・ 進め方	<p><工夫が見られた点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話から意見交換の流れにしたことで、インプットしたことを、他者との協議においてアウトプットする場が設定されていたこと。 ・グループごとに協議のテーマを設定し、協議後の全体報告で意見を共有したことで、テーマについて多面的に考えることができたこと。
参加者の 意見	<p><テーマに関することについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシーを高めるために、学校の授業においてはもちろん、授業参観等で家庭や地域に向けて啓発するようにしていく。 ・ルールを決めることはもちろんであるが、ルールについて教える、ルールを守ることができるように支援することが大切である。 ・子供たちとの、日常の会話等で、学校・家庭・地域が情報モラル等について伝えていく。
その他	<p><参観者の感想等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話内容がすばらしく、講師を身近な地域住民に依頼した点が良かった。 ・集会の様子から、学校と保護者、地域がよい信頼関係を築いている様子がうかがえた。 ・スマホの使い方について、どのようにしてルールを明確にするか、子供たちへの伝え方が大切なのではないか。 (例：スマホを持つことは、車を運転することと一緒等) ・ルール、リテラシーを子供の頃からしっかりと教えることが大切だと思った。 ・スクリーンタイムの長さではなく、ICT（スマホやタブレット等）を活用した学びの充実を図ることが大切だと思う。そのために、よい使い方の事例等を示すとよいのではないだろうか。

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」実践例

学校名	大網白里市立増穂小学校
テーマ	「学校と家庭・地域が連携していく方法」
実施形態	授業参観を併せて実施、グループ協議
日時 会場	令和6年1月22日（月） 14:50～16:10 体育館
参加者	地域住民 14名 保護者 10名 教職員 18名 学校評議員 3名 民生児童委員・福祉協議会増穂支部 9名 計 54名
広報	・保護者及び地域（各団体）への案内（配付物）
内容・ 進め方	<p><工夫が見られた点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の座席が車座で、互いの表情が見られるようになっていたこと。 ・それぞれのグループが、教職員、民生児童委員、社会福祉協議会、学校評議員、PTA 本部役員、保護者など、様々な立場の方で構成されるように配慮されていたこと。 ・進行役の教職員が、話しやすい雰囲気づくりに努めていたこと。
参加者の 意見	<p><テーマに関することについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみの活動が減っていて、地域に子供が何人いるのかわからない。個人情報の問題もあるとは思いますが、どのような子供たちがいるのかわかると良い。 ・学校の周囲に、抜け道となっている道路があり、スピードを出して走る車が多いため心配である。見守り活動をしている方に様子を聞いたり、市に対応を求めたりしながら、地域みんなで子供たちの安全を見守っていききたい。 ・災害時に備え、家族がどこで落ち合うのか、第一避難場所を確認しておくとう良い。 ・防災グッズだが、避難所に食料の備蓄はある程度確保されていると思われる。それよりも、歯ブラシや洗口液などの口腔ケア用品を用意しておくことが大切である。
その他	<p><参観者の感想等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新年早々に能登半島で大地震が発生したこともあり、安全・防災といったテーマについて意見交換ができたことは、大変有意義であった。 ・子供たちの安全や、防犯、防災については、学校や行政だけでなく、地域住民や専門家など様々な方との連携が必要である。 ・さまざまな立場の方と情報交換、意見交換ができた。このような機会を設けていただきありがたい。

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」実践例

学校名	市川市立第四中学校
テーマ	「生徒との交流をもとに、課題解決に向けて考える」
実施形態	学校運営協議会を兼ねて実施
日時 会場	令和5年11月13日（月） 10:30～12:10 校長室（多目的室、視聴覚室）
参加者	学校運営協議会委員 12名 生徒12名 計 24名
広報	・出席を直接依頼
内容・ 進め方	<p><工夫が見られた点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な視点で「学校に必要な支援等」について、地域と共に課題解決に向けた協議を行っていたこと。また、今後の協議に向けて、生徒との懇談をとおして、学校のよさや課題について把握していたこと。
参加者の 意見	<p><学校運営に関することについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行にあたり、一部の部活動は市内のモデルとなり実施している。 ・校則を改善するにあたり、可能な学年から試験的に進めてみてはどうか。 ・地域ボランティアが不足しているため、多くの方にぜひ御協力をお願いしたい。
その他	<p><参観者の感想等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動地域移行や教員の不足等、学校は多くの課題を抱えているため、1つ1つ地域と学校とが協力して解決していければ良いと感じた。 ・四中の子供たちが、愛校心を持ち、四中に誇りを持っていることに感銘を受けた。 ・生徒が、様々な視点で学校について考えていることがわかり、少しでも要望に応えていきたいと思った。

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」実践例

学校名	我孫子市立我孫子第二小学校、我孫子市立我孫子第三小学校 我孫子市立高野山小学校、我孫子市立我孫子中学校
テーマ	「地域で取り組む防災・減災 ～学校における避難所開設・運営について～」
実施形態	合同開催、講演会
日時 会場	令和5年11月10日（金） 15:15～16:15 我孫子市立我孫子第三小学校体育館
参加者	地域住民 3名 保護者 8名 教職員 70名 学校運営協議会委員 8名 計 89名
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者及び地域への案内（配付物、回覧等） ・学校ホームページ
内容・ 進め方	<p><工夫が見られた点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会で、地域の課題について協議した内容をテーマに設定したこと。 ・3小学校、1中学校による合同開催にしたことで、より広い視点で地域防災について考えることができたこと。
参加者の 意見	<p><テーマに関することについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もしもの場合」どのように行動すればよいのか、自分事として考えることができた。 ・「あびこハザードマップ」や「洪水避難情報ハザードマップ」について知らなかった。同じような住民のためにも、積極的に周知していくことが大切だと思った。 ・防災・減災への取組を進める際には、事前の準備が大切だということが分かった。地震と風水害の特性を考えた上で、避難に向けた準備を行っていきたい。
その他	<p><参観者の感想等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる地域や環境について知ったことで、あらためて防災及び減災について考えるよい機会となった。 ・「あびこハザードマップ」は子供たちにとって難しい部分があるため、授業などで活用し改めて確認しようと思った。 ・訓練等を行うことで、より目的意識をもって、防災や減災に向けた取組みができるのではないだろうか。 ・このような減災に向けた取組みを教えていただいたので、今後の有事に向けて、地域ぐるみで継続して取り組んでいく必要があると思った。